



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

アシュラムの幻

アシュラム連盟理事長
牧師 横山 勲

モーセのごとき力強きリーダー前理事長・横山義孝先生の後任として一昨年 6 月新理事長に就任いたしました。連盟理事長という重責を担い恐れおののき、た

だ主の御力に頼り祈るのみであります。

今後のアシュラムの歩みについて、祈るとき主から幻が与えられました。

はじめの幻は、オアシスとしてのアシュラムであります。創始者スタンレー・ジョーンズ宣教師がインドでアシュラム集会場(現在はアシュラム道場)を立ち上げた地は「サツタル」(7つの湖という意味)と言って、インドの中でも緑の豊かな山々に囲まれた奥深い場所にあり、大きな湖のほとりのオアシスのような所であります。アシュラムの働きも、天国へと旅するクリスチャンにとって霊的なオアシスとなるべきであります。「神の川は水で満ちている。」(詩篇 65:9)

主イエスも、「わたしが与える水を飲む人はいつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の中で泉となり永遠の命の水が湧き出ます」(ヨハネ 4:14)と語っておられます。聖霊の満たしと静聴の恵みを受け、渇きと疲れが癒され、アシュラムから帰るとき聖霊に満たされ、生きる力を取り戻し再び主の道に遣わされて行く場であります。

次の幻は、兄弟愛の満ちるアシュラムであります。詩篇 133:1 に「見よ。何という幸せ、何とい

う楽しさだろう。兄弟たちが一つになって、ともに生きることは」とあるように主の兄弟姉妹たちが一つ屋根の下に集い、ともに交わり、食し、かの初代教会のコイノニアの実現を目指すものであり、あらゆる人間的な中垣を排除し全き兄弟姉妹として過ごす主の家であります。レギュラーメンバーも初心者も互いに受け入れあい、主にあって一つにされる場となるように努め励むのであります。

最後の幻は、祈りの家としてのアシュラムであります。スタンレー・ジョーンズ師のアシュラム運動は祈りから始められたと知ります。仕事から解放されて祈りに打ち込むことこそ、アシュラムの重要な体験であります。

主イエスは祈りの人でありました。「イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行きそこで祈っておられた。」(マルコ 1:35) また、「絶えず祈りなさい」(1テサロニケ 5:17)と記されています。

祈りの細胞、徹夜の連鎖祈禱、各集会、個人の祈りにおいて集中して祈りに没頭できるのはアシュラムの恵みであります。

祈りの課題は山積しています。アシュラム連盟における祈りの課題で最重要課題は、アシュラムセンター(近江八幡)アシュラムとの協力、交流さらには合一であります。かねてよりその機運が高まりつつあり第 50 回年頭アシュラムにおいて、主幹牧師の榎本恵先生はアシュラムの合一について語っておられたと聞きます。具体的に乗り越えなければならない壁は予想されますが、主の導きの手に委ね目標達成を目指して前進してまいる所存であります。

皆様の上に主の平安と恵みがありますように。

霊想 主はわが牧者

日本バプテスト連盟

早良キリスト教会 牧師 今村まさる



夫、今村幸文が召されて早や 6 年となりました。今村は若い時にスタンレー・ジョーンズ師に出会い、58 年間の牧会生活の全ての教会でアシュラム集会を奨励してきました。晩年には手のしびれから指を真っ直ぐ伸ばすことができな

かったため、親指、人差し指、中指を立てて「イエスは主なり！」と喜びと感謝をもって宣言しておりました。

さて、私は仏教の影響を強く受ける福井県で生まれ育ちました。ところが 20 歳の時に友人の勧めで、思いがけずキリスト教会の伝道集会に導かれました。神さまの大きなお働きの中、主イエスこそわが主であると理解できた時の感動は今も忘れられません。教会での学び、青年の交わりを通して受浸に至りキリスト者となりました。23 歳で結婚し牧師夫人となりました。4 人の娘が与えられ、6 人の孫たちも含め皆クリスチャンとなり、あちこちで励んでおります。私は 52 歳の時に神学校に導かれ、現在は協力牧師として主が用いて下さっています。1 月に 86 歳を迎えましたので、この 3 月末をもって協力牧師としての働きは引退し、違う形で主にお仕えすることを祈り委ねております。

礼拝の説教を準備する中で、65 年間のクリスチャン生活がいかに恵みに富んだ日々であったかを「詩編 23 編」をもって語りたいたの思いに導かれました。ダビデの賛歌です。ダビデ自身、子どもの頃から父親の羊の世話をしていましたから、人はみな羊のようだと思わされるのがたびたびあったのだと思います。羊は弱く単独では行動できず、誰かに護られなければ生きていけません。そんな羊と人間を重ねていたのでしょうか。さらに神さまは羊を護る羊飼いのようである、と強く思うに至ったのです。「主は羊飼い。わたしには何も欠けることがない。」（1 節）

私たちは「主は私の羊飼いです」と毎日、宣言することはとても大事なことです。主が私の羊飼いであるならば、私は必要なものをすべて持って

いることに気づくのです。主は羊の体の必要だけでなく、魂をも生き返らせてくださいます。身体の疲れは休めば癒されますが、魂を生き返らせることができるのは主だけなのです。アンドリュー・マーレーは「わたしたちが心に渴きを覚える原因は、静思の時間がなおざりにされているからである」と語っています。私たちは積極的に静思の時を持ち、私の羊飼いはあなたです、と宣言してまいりましょう。

「死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」（4 節）とあるように、ダビデは主を「あなた」と呼んでいます。私たちが人生の最も暗い苦難の中を行く時、私たちは天高い遠いところからの助けをさびしく待つのではないのです。遠い存在の神としてではなく、人格を持った親しいお方である「あなた」が共にいてくださるとおっしゃるのです。「あなたの鞭と杖 それがわたしをカづける」とはどういうことでしょうか。あなたの鞭は、私たちに恐怖で強制するものではないのです。私たちに襲ってくるオオカミや熊などを追い払い、外敵から守るためのものなのです。また、あなたの杖とは、羊をやさしく導き、行くべき道を指し示すための道具なのです。新改訳 2017 では「まことに私のいのちの日の限り いつくしみと恵みが 私を追って来るでしょう」（6 節）と記されています。先頭には羊飼いである主が導いてくださり、後ろからは「いつくしみと恵みが」追いかけてくるとは、なんと心強く、またなんとという恵みでしょうか。

そして、「主の家にわたしたちは帰り、永遠に、そこに住まう」（6 節）とあります。自分がこの世を去る時に行く場所でなく、帰る場所として主の家と記されていることは恵みです。そしてその後、永遠に主の家にとどまってよいとは。このようなゆるぎない平安は、主のみもと以外にはどこにも見つかりません。

最後に今一つ、「詩編 103 編 1～5 節」を贈ります。新たな歩みを祈ります。

日本アシュラムの五大原則

1. キリストの明け渡しと服従
2. 御言葉への静聴と立証
3. 聖霊の導きと充満
4. 教会への奉仕と伝道
5. 神の国の体験と献身

交証 一日アシュラムの集いに参加して

日本基督教団 香櫨園教会 信徒 饗庭具仁子^{あいばくにこ}

香櫨園教会では、毎年 1 月の最終日曜日に『一日アシュラム』を開催しています。「クリスチャン・アシュラム」が日本で初めて開催されたのは 1955 年でした。アメリカのメソジスト教会の宣教師であった E.スタンレー・ジョーンズ博士により普及されたとのこと。それから月日は流れましたが、香櫨園教会では、今年も 1 月 26 日の聖日に『一日アシュラム』が開催されました。

新年が明けて 4 回目の日曜日を迎えたこの日、一人一人が置かれた状況に応じて思いは異なりました。しかし、新しい年を迎えたばかりのこの時期は、今年こそは……という希望に満ちた思いを巡らす時期でもありました。そのような時に、午前の礼拝から始まり、午後の 2 時過ぎまで、共に賛美歌を歌い、聖書を読み、祈りの時を分かちあって過ごすことができました。それは、共に主イエス・キリストを救い主として信頼し、告白し、互いに祈り合う時間でもありました。

まず、午前の「礼拝」では、助言者の牧師からフィリピの信徒への手紙 2 章 1 節～18 節をテキストに「神の持つ関心を知る」との説教題でメッセージが語られました。それを聞く中で、神であるのにもかかわらず、へりくだって人間の姿で現れくださった主イエス・キリストが、地上生涯においても常にへりくだり、いつも他者を配慮する生活を貫かれたことに深い感謝の気持ちがわきました。そして、自分自身の人間関係を振り返ってみる中で「自分はこのキリストのへりくだりを理解して、信仰生活の中で実践していただろうか」ということを思い巡らす時とさせていただきました。

昼食を挟んだ午後の集会のプログラムは「オリエンテーション」「静聴の時」「分かち合いの時」「祈りの細胞」と続きました。「オリエンテーション」では、「イエスは主である」の「主」という言葉の意味が詩編 23 編から助言者によって語られました。そこに「主は羊飼いだ」と記されているように、憐れみ深い羊飼いだである主が、「もはやあなたの人生を、あなた自身で背負おうとしなくてよいのだ」と、自分に語り掛けてくださって

いるように感じました。そして、主が私の人生を背負ってくださっていることに深い慰めをいただくことができました。

「静聴の時」は、フィリピの信徒への手紙 1 章～2 章を参加者全員で輪読し、聖書を通して聖霊が語られる言葉に各自が心を傾ける時間を持ちました。新しい気持ちで読む中で、それぞれが発見したことを次の「分かち合いの時」の中で分かち合いました。その後は、3 グループ 5 人単位の細胞を作り、共に祈り、共に分かち合う「祈りの細胞」の時を持ちました。それぞれが、今抱えている問題などを打ち明け、隣にいる人が主に解決を求めて祈りました。「他言は絶対にしない」というお互いの信頼のもとで、声に出して心のうちを主イエス・キリストを通して神様に打ち明け、互いに祈り合いました。

私には「祈りの細胞」という表現は正直なところ抵抗感がありました。しかし、主イエス・キリストがいてくださる場において、共に主を通して心のうちを開き渡せる空間と時間は、とても優しさに満ちた恵みに感じられました。手紙などの結びに「ご健康をお祈りします」などとよく書きます。決して口先だけでない思いは込めているのですが、アシュラムの『祈り』を通して、お互いを思いやり、分かちあう気持ち(祈り)を感じることができました。

最後の「閉会」の時、再び集まり「イエスは主である。主はよみがえられた。主は実によみがえられた」と、三本の指を立てて 3 回告白するなかで今年の『一日アシュラム』は閉会しました。わずか 4 時間ほどの集いでしたが、心が満たされるひとときでした。穏やかなひとときを与えていただけたことを喜んでいきます。また、明日への原動力にも繋がり、参加できたことを感謝しています。



第 56 回城北アシュラム

日本基督教団 新宿西教会 信徒 守部栄子
2 年半ほど前に突発性難聴で倒れ、治療、静養、リハビリの時を過ごして、現在は自宅から教会まで電車と歩きも一人でできるようになりましたが、後遺症で大勢の人の中にいるとすべての音が聞こえ、聞きたい音が聞き取りにくいので、しばらくは教会以外の集会へは参加を控えていました。今年の初め、城北アシュラムの案内を見た時、心の内に「行ってみたい」と思いが起り参加を決めました。

当日は、一人で電車を乗り継いで、最寄り駅から会場の池の上教会まではユックリ歩いて 30 分、疲れよりもアシュラムへの期待が大きかったです。一日中、みことばを聞くことの喜びをいただいています。そして、過ぎた 2 年半は神様の真実とみことばの約束に力をいただいていたことを確認するような時間でした。

「しかし、わたしは絶えず望みをいだいていよいよあなたをほめたたえるでしょう」（詩篇 71 篇 14 節）を「試みの時にも、望みを抱くことができる。絶えることのない神からの望みと希望がある」とメッセージで語られた時、「立つこともできなかった時にも、確かに主に期待することが希望だった」ことを思い返して感謝しました。

以前、自分の人生を自分のものと思っていた時、私には希望がなかった、生き方が分からなかった、そこから救い出されたことの恵みも確認していました。「心を低くし、罪を認めて、神の正しさが行われることを願う生き方」、その生き方を得たいとの祈りをいただいた時でした。ドミノピザが教会の近くにあったいな～とも思いました。



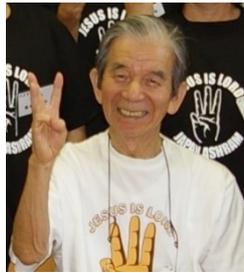
連盟 Zoom 全国理事会開催

2 月 27 日夜、初めて Zoom (インターネット)での臨時全国理事会が行われました。

議題として、アシュラムセンター開設 50 周年記念アシュラムに横山勲理事長が出席すること、連盟アシュラムの今後の運営について、会計面における課題一ご支援の要請など、今後も対面と Zoom を用いた理事会を毎年開くこととなりました。

故 鍋倉勲師の思い出

日本同盟キリスト教団 無任所牧師
九州アシュラム委員長 岡山敦彦



長年にわたり九州アシュラムを導いてこられた鍋倉勲先生が 1 月 17 日に召されました。おごそかに葬儀が執り行われました。

先生は多くの人たちから慕われ、信仰的にも人格的にも素晴らしいお方でした。アメリカ合衆国から帰国されてすぐに、アシュラム

の創設者スタンレー・ジョーンズ博士の通訳を務められ、ともに旅をされました。その時のインパクトが強く、その後の鳥飼バプテスト教会の牧会にも大きな影響を与えました。礼拝の最初にアシュラムのシンボルの三本指を立てられ「イエスは主なり」と唱和して始められたとお聞きしています。先生は福岡市の鳥飼バプテスト教会を辞され、北九州市小倉北区の西南女学院に教授として移られました。聖日は無牧の教会の奉仕に励まれ、いつも精一杯の奉仕をされました。その時以来、私との交わりもいっそう強くなり、私たちの教会(小倉中央教会)の祈禱会にも出席してくださいました。

九州アシュラムの会場も、飯塚の研修所から北九州市の西南女学院の研修所、宗像市のカトリック黙想の家と変わりましたが、いつもアドバイスをしてくださいました。

アシュラムには必ず参加され、先生の幅広い人脈で助言者にふさわしい方を教えていただきました。

偉大な方を天に送りましたが、私も微力ながら九州アシュラムの継続、発展のために励んでいきます。

アシュラム予告

- 第 3 回戸畑高峰教会アシュラム
日時・4 月 28 日、29 日 (月、火祝)
助言者・岡山敦彦師
- 第 56 回九州アシュラム
日時・9 月 14 日、15 日 (日、月祝)
場所・鳥栖日韓文化交流センター
助言者・深谷与那人師
- 第 60 回関東アシュラム
日時・9 月 22 日、24 日 (月、水)
その他、予定されているアシュラムを事務局にお知らせください。

献金のお勧め

アシュラムへの献身として、この運動のためにお献ぎいただけないでしょうか。様々な物価上昇のなか大変恐縮ですが、アシュラム誌印刷代、送付費用、事務費、理事会費等に用いさせていただきます。お祈りください。

編集後記

2 月 27 日(木)にズーム(Zoom)で、日本クリスチャン・アシュラム連盟の新理事会が開かれました。新しい体制になって初めての理事会でした。いくつかの事柄が決められましたが、私から 2 つのことをアピールいたします。

第一は、アシュラムは信徒中心であるべきでした。教職中心ですと、教職が第一線から退くと、地方のアシュラムは存続の危機におちいります。アシュラムのために献身する信徒が起されるようお祈りください。

第二は経済的ピンチです。このままだと、対面の理事会が開けない、アシュラム誌発行もできなくなります。経済の面でも信徒が支えてくださることをお願いします。(岡山敦彦)